

## ⑥ 豊臣秀吉陣立書

〔天正一二年（一五八四）

小牧・長久手の戦い〕

（一）

いけ田孫次郎

三百五十

山さき源太左衛門

七百五十

多か新左衛門尉

三百

合千四百

（右二）

千五百

木村隼人

六百

ほりを毛介

合式千百

（左二）

千

かとう作内

六百

ミこ田半左衛門

七百

一柳市助

合式千三百

（中三）

百八十

いこま市左衛門

百廿

つげ与八

四百

あか松弥三郎

百八十

大しほ金右衛門

三百

まき村長兵衛

四百廿

もりかわち

百八十

山内いゑもん

百八十

ふる田彦三郎

百五十

かすや助右衛門

合貳千百十人

(中四)

木下与右衛門

百廿

さいか孫一

貳百

ふなこし

百

たか宗十郎

百五十

木村や一右衛門

百卅

みや木藤左衛門

七十

いくま源介

百廿

いとう弥吉

百五十

の村たくミ

百五十

(右五)

河尻与四郎

百卅

ふく島市兵衛

貳百五十

かとう孫六

百五十

さくま忠兵衛

百廿

と田三郎四郎 三百  
池田久左衛門 九十  
松下かひやうへ 百  
津田小八郎 百五十  
合千三百

(左五)

もり三右衛門尉 百  
かとう虎介 百五十  
ひとう甚右エ門 五百  
ひらの権平 百五十  
たき川ぎ太夫 百  
はや川喜八郎 百五十  
はちや五郎介 貳百五十  
合千四百

(六)

いとう七蔵くミ  
つ田与左衛門くミ  
まの左近くミ  
三千  
秀吉(花押)  
はやミ勝たくミ  
さとう主計くミ  
尼子六郎左衛門くミ

此備都合壹万五千

読み

(一)

「池田」孫次郎 三百五十

「山崎」源太左衛門尉 七百五十

「多賀」新太左衛門尉 三百

合千四百

(右二)

木村隼人 千五百

「堀尾」毛介 六百

合式千百

(左二)

「加藤」作内 千

みこ田平左衛門 六百

一柳市助 七百

合式千三百

(中三)

「生駒」市左衛門 百八十

「柘植」与八 百廿

「赤松」弥三郎 四百

「大塩」金右衛門 百八十

「牧村」七兵衛 三百

「毛利河内」 四百廿

山内「伊右衛門」 百八十

「古田」彦三郎 百八十

「糟谷」助右衛門 百五十

合式千百十人

(中四)

木下与右衛門 百廿

「雑賀」孫一 式百

「舟越」 百

「多賀」宗十郎 百五十  
 木村や一右衛門 百卅  
 「宮木」藤左衛門 七十  
 「生熊」源介 百廿  
 「伊藤」弥吉 百五十  
 「野村」内匠介 百五十  
 合千貳百

(右五)

河尻与四郎 百卅  
 「福島」市兵衛 貳百五十  
 「加藤」孫六 百五十  
 「佐久間」忠兵衛 百廿  
 「戸田」三郎四郎 三百  
 池田久左衛門 九十  
 松下「嘉兵衛」 百  
 津田小八郎 百五十  
 合千三百

(左五)

「森」三右衛門 百  
 「加藤」虎之介 百五十  
 「尾藤」甚右衛門 五百  
 「平野」権平 百五十  
 「瀧川」義太夫 百  
 「早川」喜八郎 百五十  
 「蜂屋」五郎介 貳百五十  
 合千四百

(六)

「伊藤」七藏くミ  
 「津田」与左衛門くミ  
 「真野」左近くミ

秀吉（花押）

〔早水〕勝太くミ

〔佐藤〕主計くミ

〔尼子〕六郎左衛門くミ

## 内容

羽柴（豊臣）秀吉が作成した陣立書。陣立書（じんだてしよ）とは出陣の命令を下す際に一番手、二番手と家来を組み分けし、その組をひきいる武将と組の人数を記したものです。

この史料はかつて、秀吉の朝鮮征伐の際のものと伝えられていたことがありましたが、武将の顔ぶれから判断して小牧長久手の戦にあたっての陣立書と思われます。秀吉が最後尾に書かれ、左五（五段目左側）に加藤虎之介（加藤清正）、蜂屋五郎介の名がみえます。